

南西海ブロック会議生物環境研究会
議 事 要 録

平成 2 年 度

会 期：平成 2 年 11 月 16 日

会 場：神 戸 市

(瀬戸内海漁業調整事務所)

水産庁南西海区水産研究所

開 会

1. 平成2年度南西海ブロック生物環境研究会は、平成2年11月16日（金）10時から17時まで、神戸市の瀬戸内海漁業調整事務所において開催された。
2. 南西海区水産研究所赤潮環境部長から別添1のとおり開会挨拶があった。
3. 議長に南西海区水産研究所の今井室長を選任し、議事次第に従って会議を進めた。

議 題 1. 平成2年度における赤潮の発生状況と環境条件について

各府県水産試験場の担当官から、平成2年度における赤潮および貝毒プランクトンの出現状態、ならびに漁業被害の実態や環境条件の特徴について、報告がなされた。これらの報告を受けて、討議と意見交換を行った。

議 題 2. 研究発表として5つの話題が提供された。

ア. 奇妙な海？ 円山川、福良湾

提供者 眞鍋 武彦（兵庫県立水産試験場）

座 長 矢持 進（大阪府水産試験場）

イ. 赤潮形成種の Growth rate と Cell cycle

提供者 小野 知足（香川県水産試験場）

座 長 矢持 進（大阪府水産試験場）

ウ. 内海域における底泥中の珪藻休眠細胞の分布と形態

提供者 板倉 茂（南西海区水産研究所）

座 長 田森 裕茂（大分県浅海漁業試験場）

エ. 広島県海域の富栄養化

提供者 大内 晟（広島県水産試験場）

座 長 田森 裕茂（大分県浅海漁業試験場）

オ. 水の COD、泥の COD をめぐる問題

提供者 畑 幸彦（高知大学名誉教授）

座 長 会沢 安志（南西海区水産研究所）

議 題 3. その他

- 1) 大阪府水産試験場の矢持 進氏から「おおさかの渚」の資料について説明がなされた。
- 2) 研究会の組織と運営について、別添2のとおり確認がなされた。

平成2年度 南西海ブロック生物環境研究会 開会挨拶

本日の研究会は南西海ブロック会議ということで、本来ならば南西水研所長がご挨拶すべきところですが、欠席ということで私の方から一言ご挨拶を述べさせていただきます。私、先月部長を拝命したばかりで、こういった席での挨拶は何分不慣れで、まとまった挨拶とはならないかもしれませんが、新米ということでご容赦頂ければ幸いです。

最近の瀬戸内海は一頃から比べると大分きれいになったと言われていますが、環境庁によるとCODの環境基準の達成率まだ80%程度で、ここ数年は横ばい状態で改善が進んでいるとは言えない状況にあるそうです。このため、環境庁も総量規制をさらに強化する方針で、つい先日の新聞にも諮問を受けた中央公害対策審議会がその答申をまとめたという記事が出ておりました。我々水産の立場からしましても、漁獲量は伸びたとはいってもその殆どはイワシを主体とした低価格魚ばかりで、高級魚についてはむしろ減少の傾向にあり、赤潮の発生は依然として続いているという状況にあります。さらに、今年になってからも、有機スズやパルプ廃水からのダイオキシンによる魚の汚染といった問題が次々と明るみに出されています。また、大阪湾などではN/P比の極端な増加の兆しが見られ、生態系への影響が心配されていますし、私共水研の近くでも宮島の鳥居の囲りにアオサが大量に集積して困っているという報道もされております。こういった状況から判断しましても、瀬戸内海の生物を取巻く環境はまだまだ正常な状態とは言えず、我々もなお一層の努力を続ける必要があるように感じられます。

このような環境問題は、一部の府県だけでなく、周囲の府県全てが同じ認識を持って一致して努力することが大切であると思われませんが、本日の研究会はこのような共通の認識を得る場として、非常に有意義なものと考えております。

本研究会は、これまで漁場保全研究会と呼んでいたものを、今年から生物環境研究会として再出発したのですが、初回からこのように多数ご参加いただきまして、私共世話機関としては非常に喜ばしい限りであります。特に、ブロックにこだわらず、遠く静岡、長崎、佐賀、熊本といった県からも参加して頂いてるようで、瀬戸内海以外の各地の状況も参考にさせて頂き、実りある討論が出来るものと期待しております。

また、漁場環境については造詣の深い畑先生には、特別に御参加頂きまして、改めて御礼を申しあげるとともに、遠慮なくご助言、ご批判を下さるようお願い致します。

最後になりましたが、この会場を提供して頂くとともに、懇親会その他でいろいろお世話を頂いた瀬戸内海漁業調整事務所の所長さん始め職員の方々に、この場をかりて御礼を申し上げて、挨拶を終らせて頂きます。

別 添 2

生物環境研究会の組織・運営方針

1. 目 的

本研究会は、勉強会、情報・技術交流、研究発表などを通して、関係機関の研究の発展に資することを目的とする。

2. 取り扱う分野

赤潮、低次生物生産、汚染など漁場環境に関する幅広い分野を対象とする。

3. 運営・組織

(1) 関係府県を3つのブロック単位に分け、各単位に代表世話人をおく。代表世話人と水研担当者として世話人会を構成する。

(2) 世話人会は会の企画・運営に関することを行う。

(3) 事務局は南西海区水産研究所 赤潮環境部 赤潮生物研究室におく。

(4) 会議の開催

原則として年1回とする。ただし、関係機関の希望をうけて随時に開催できる。

(5) 開催場所

当分の間「広島市」とする。

(6) ブロック単位の構成と代表世話人

ブロック名	関係府県名	代表世話人 選任システム	平成3年度 代表世話人
東部ブロック	和歌山県、大阪府 兵庫県、岡山県	もち廻り、西向き 大阪－兵庫－岡山 －和歌山県	大阪府水試 矢持 進(2年目) (2年間担当)
四国ブロック	香川県、徳島県 高知県、愛媛県	右廻りの毎年交替 徳島－高知－愛媛 －香川県	徳島県水試 大塚弘之
西部ブロック	広島県、山口県 福岡県、大分県 宮崎県、鹿児島県 (沖縄県)	毎年交替、西向き 山口－福岡－大分 －宮崎－鹿児島 －広島県	山口県内海水試 池田武彦
事務局	南西水研 赤潮環境部		赤潮生物研究 室長

別添 3

出席者名簿

機 関 名	役 職 名	氏 名
高知大学名誉教授	三洋水路測量顧問	畑 幸彦
和歌山県水産試験場	主査研究員	竹内照文
"	研究員	小久保友義
大阪府水産試験場	主任研究員	矢持進
"	"	青山英一郎
兵庫県立水産試験場	主任研究員	眞鍋武彦
"	"	大谷和夫
"	研究員	長井敏
岡山県水産試験場	研究員	藤沢邦康
"	技師	林浩志
広島県水産試験場	主任研究員	大内晟
山口県内海水産試験場	科長	池田武彦
"	研究員	馬場俊典
徳島県水産試験場 鳴門分場	科長	吉田正雄
"	研究員	大塚弘之
香川県水産試験場	研究主幹	小野知足
香川県赤潮研究所	首席研究員	松本紀男
"	主任研究員	吉松定昭
高知県水産試験場	技師	土居聡
愛媛県水産試験場	主任研究員	小泉喜嗣
愛媛県水産試験場 東予分場	研究員	竹中彰一
"	"	薬師寺房憲
福岡県豊前水産試験場	専門研究員	神蘭真人
"	主任技師	吉田幹英
大分県浅海漁業試験場	主任研究員	田森裕茂
大分県水産試験場	研究員	坂本進
宮崎県水産試験場	技師	田中宏明
鹿児島県水産試験場	研究員	折田和三
"	"	徳永成光
静岡県水産試験場 浜名湖分場	研究主幹	長谷川仁
三重県水産技術センター	室長	柴原敬生
佐賀県有明水産試験場	研究員	野田進治
佐賀県玄海水産試験場	技師	千々波行典
長崎県水産試験場	科長	轟木重敏
"	研究員	松尾勝樹
熊本県水産研究センター	技師	渡辺裕倫
瀬戸内海漁業調整事務所	課長	久田幸一
"	係長	柳田芳孝
"	係員	古賀一郎
南西海区水産研究所	赤潮環境部長	会沢安志
"	室長	今井一郎
"	研究員	板倉茂